

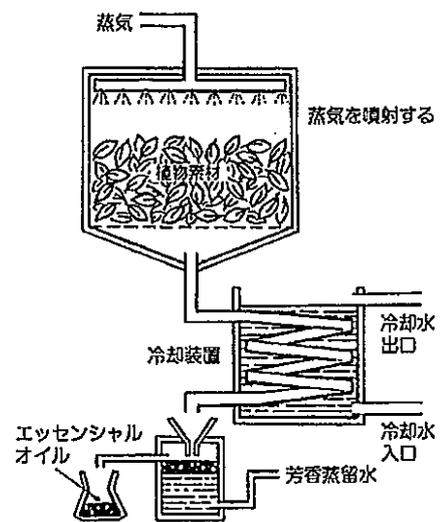
## ハイドロディフュージョン法とパーコレーション法について

精油の抽出方法の水蒸気蒸留法の解説にあったハイドロディフュージョン法とパーコレーション法につきまして、**パーコレーション法（ハイドロディフュージョン法）**と考え方を統一いたします。お手数ですが、お持ちのテキストの該当ページをご確認のうえ、説明文の訂正をお願いいたします。

### 【統一後の解説】

直接蒸気を釜の上から注入する方法はパーコレーション法（ハイドロディフュージョン法）と呼ばれます。この方法では植物の上から水蒸気が注がれます。高圧で熱がかけられた植物から芳香成分が出て、更に上から注がれる蒸気は上から下へと流れるので、芳香成分は水とともに釜の下部に溜まります。下部に溜まった液体を冷やし、上澄みのみを集めたものが精油となります。従来の水蒸気蒸留法よりこの方法のほうが時間がかからないことが利点ですが、現在では広く流通していません。

木材や種子などの硬いものから精油を採るときに用いられ、水蒸気蒸留法ならば12時間かかる抽出時間が4時間と短時間で済みます。精油の原料になる植物が不必要に水蒸気にさらされる時間が短くて済むので、良質の精油を採ることができます。



〈図：パーコレーション法  
（ハイドロディフュージョン法）〉

### 考え方の統一の経緯

以前より、パーコレーション法とハイドロディフュージョン法との違いについてご質問が寄せられておりました為、改めてテキストに記載した内容の出典元などを再確認したところ、パーコレーション法はハイドロディフュージョン法とも呼ばれることがわかり、どちらも蒸気を原料植物の上から注入するという方法でした。当協会より、『パーコレーション法は下から蒸気、ハイドロディフュージョン法は上から蒸気を当てる』と回答を受け取っていた方もいらっしゃると思いますし、試験問題にも出題されたいたことがありますので、今回の訂正にあたり、混乱が生じると存じますが、以後、上記の通り説明文を統一いたしますので、何卒、ご理解のほどよろしくをお願いいたします。

## 有機溶剤法（溶剤抽出法）の訂正箇所について

精油の抽出法の1つである有機溶剤法の解説に誤りがありました。

お詫びして訂正いたします。お手数ですが、お持ちのテキストの該当ページをご確認のうえ、訂正をお願いいたします。

**訂正箇所→赤で囲った部分を削除します**

(誤) 釜の中には熱された石油エーテルなど～中略～

(正) 釜の中には石油エーテルなど～中略～

### 有機溶剤法（溶剤抽出法）

ヘキサン、石油ベンゼンやエーテルなどの有機溶剤を用いて芳香成分を抽出する方法です。このように薬剤を用いる方法は比較的新しい方法で、手間のかかる冷浸法を工業的に実用化したものです。

直径1.5メートル、高さ2メートルの円柱型の大きな釜にメッシュの中ぶたが何層も入る構造になっています。この中ぶたに、植物を厚さが10センチ近くなるまでたっぷりと重ね入れます。釜の中には熱された石油エーテルなどが入っており、そこに香りが移ります。この工程が終わると石油エーテルは赤

黄土色の液体になります。この液体から有機溶剤を揮発させると常温では固形ワックス状になるコンクリート（香りの成分：60%、花ろう・その他：40%）と呼ばれるものが得られます。このコンクリートにエタノールを加えてよく溶かし、香りを通し、冷浸法と同じようにエタノールを蒸発させて芳香成分を得ます。この方法で採られた花の芳香成分も冷浸法と同様アブソリュートと呼び、樹脂の芳香成分の場合はレジノイドと呼び、水蒸気蒸留法で採られた精油と区別して呼ぶこともあります。

〈有機溶剤法〉

